

介護の人手不足 どう対応

人手不足が深刻化している介護……の人材を確保するのか、重要な課題。超高齢社会に備え、いかに介護……となっている。その現状を追った。

離職率は二極化の傾向

約100万人が不足する。示す介護分野の有効求人倍率は今年3月で2.08倍。2012年度で全国に153万人いる介護職。介護分野を含む全ての職業。団塊の世代が後期高齢者となる25年度には、237.249万人が必要と予想されるが、人手不足は既に深刻な状況だ。1人当たりの求人件数を「働安定センター」の介護労働実態調査によると、人手が「大いに不足」「不足」の回答を含めた割合は、訪問介護事業者で38.1%、施設介護で18.2%。都内にある特別養護老人ホームの施設長は「常勤職員が担当者制で利用者を受け

キャリアアップの仕組み必要



お年寄りに優しく話し掛ける「東電さわやかケアポートとしま」の職員＝4日 東京・豊島区(画像は一部加工してあります)

介護職に対するイメージ「クラブ参照」について、内閣府の調査によると、「社会的に意義のある仕事」など肯定的な意見がある一方、「夜勤などがあり、きつい仕事」などのマイナスイメージも根強く、人材を集めにくい要因ともなっている。このような介護の現状を職者はどう分析しているのか。上智大学の藤井賢一郎准教授は「サービス業としてみると、30%ほどの宿泊・飲食業より離職率はずっと低い」と指摘する。そもそも介護保険制度が



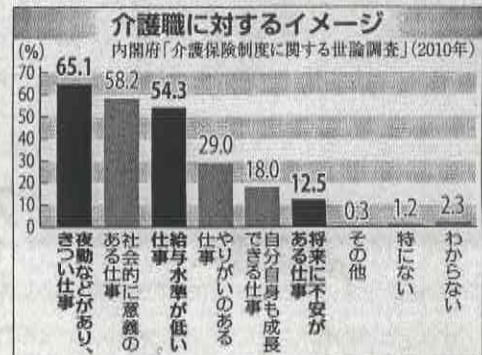
「としま」の玄関付近に掲示されている介護職員募集のお知らせ

「おはようございます! お元気をうすね!」と、午前10時すぎ、東京都豊島区にある多機能型介護センター「東電さわやかケアポートとしま」の玄関付近に掲示されている介護職員募集のお知らせ。同センターは、06年設立時の拡大路線の反省を踏まえ、07年11月からの経営の再建に着手。2年に、職員が優遇の声を掛け、目標に掲げたのが、地域に良質なサービスを提供し続ける会社づくりに。特に、従業員の処遇を重視することで働くモチベーションを高めて、介護サービスの質向上につなげたいと、定着を促すポ

処遇改善と人材育成に 取り組み、離職を防止

首都圏の事業者

離職防止に成果を挙げる介護事業者がある。「おはようございます! お元気をうすね!」と、午前10時すぎ、東京都豊島区にある多機能型介護センター「東電さわやかケアポートとしま」を含む首都圏75カ所が参加した。こうした努力が実り、離職率は大幅に低下した。再建時に30数%に上った離職率は、13年には、子育てや親の介護などをやむを得ない個人的な理由を除く人が参加した。また、介護サービスの質を高める取り組みの一つが、独自の人材育成システムだ。階層別の「新任者研修」「リーダー育成研修」などに加え、資格の習得支援や職種別でも研修を行っている。13年度は563回の研修に延べ1万3918人が参加した。



収入が伸びない傾向が大きい。家族を養う男性が介護職に就くには、長く働き続けられる給料水準やキャリアアップの仕組みをどう設計するかが問われる。また、女性には子育てに支障、中高年にはパートで配属していた特別養護老人ホームでは1人当たり5分の正社員化など柔軟な働き方の実現が課題だ。離職防止には、事業所側の管理・運営能力の向上も求められる。また、介護サービスの質を高める取り組みの一つが、独自の人材育成システムだ。階層別の「新任者研修」「リーダー育成研修」などに加え、資格の習得支援や職種別でも研修を行っている。13年度は563回の研修に延べ1万3918人が参加した。